

【るもい農業情報広場】

令和4年10月1日 R4-10月号

QRコードを読み取って
アクセス!!!

今月の技術対策 (水稻編)

留萌農業改良普及センター

TEL : 0164-62-1779 FAX : 0164-62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp



畑作・園芸編も
HPで公開中!

～稲わらの適正処理、透排水性の改善、土壌診断を行い、次年度に備えましょう～

- 収穫作業は、平年より5～7日程度早く進み、9月末には収穫終となりました。(普及センター調べ)。また、収穫直後から秋起こし、溝切りや心土破碎を行って、すでに秋作業が完了した水田も多く見られます。

今年は、乾いている水田が多く、適切な稲わら処理や透排水性改善を行うチャンスなので、以下を参考に作業を行って下さい。なお、稲わらの焼却は、貴重な有機資源を失なう事となり、地域のイメージ低下にもつながるので、やめましょう。

1 稲わら処理と透水性改善 ～すき込みはできるだけ秋にしましょう～

- 収穫後の稲わらは、搬出して堆肥化するのが理想です。やむをえず水田にすき込む場合は分解を促進するため、秋に行いましょう。春すき込みは、土壌還元を助長し初期生育を阻害するので、可能な限り避けましょう。

(1) 稲わら秋すき込み

ア すき込み前に、心土破碎等の透排水性の改善を実施しましょう。心土破碎は暗きよや疎水材の深さに留意して、ほ場が乾いている状況でゆっくり施工しましょう。

イ 収穫後できるだけ早く(気温・地温が低下する前)、チゼルプラウやスタブルカルチ等で土壌表面に混和するか、ロータリーの場合は浅く耕起して分解を促進させます。

(2) 透排水性の改善 (秋すき込みをしない場合)

ア 収穫後、速やかに溝掘りや心土破碎を行いましょ。掘った溝は排水口や明きよに確実に繋ぎ、田面の停滞水や融雪水が排水されるように施工して下さい。

2 土壌診断を実施して、施肥設計しましょう!

- 肥料高騰に対する事業等の関係で、土壌診断は結果が出るまでに日数が掛かっています。実施する場合は早めに採土して分析機関に依頼しましょう。なお、リン酸やカリは、前年の分析値を参考にすることも可能です。

結果が出たら、各項目の肥沃度に応じて肥料銘柄を変更するなど、低コストとなる施肥を検討しましょう。一方、ケイ酸は食味や耐病性の向上に有効な資材ですが、不足している水田が多いので分析結果に基づいた量を補給するようにしましょう。

～どんなに忙しくても… 安全確認は最優先しましょう!～